

「万象」は「風」終刊の後を受け、平成14年4月に創刊。創刊主宰は滝沢伊代次、その後平成20年から大坪景章が継ぎ、平成28年秋、創刊十五周年を機に大坪景章主宰が高齢のため退き三代目を内海良太が引き継いだ。

万象俳句会の運営方針

1. 結社としての「万象」

「万象」の結社理念は「風」から受け継ぐ、「俳句における文芸性の確立」を基盤に、「俳句実作の態度・方法としての即物具象、即物写実の写生を深め、感性を磨き技巧を戒め、個性豊かな作品を通じて、森羅万象の命の輝きを詠う」が変わらぬ理念である。

2. 実作の指針(師系の継承)

これまでの主宰巻頭言、折々の俳話を中心に、俳論では以下を指針としている。

即境俳句論 (沢木欣一)	即物性 即興性 対話性
-----------------	-------------------

上記の三要素は俳句の持つ特質だが、俳句は感動の表現に外ならず、感動の表現は「即物具象の写生」を以てするのを良しとする。(沢木欣一)

参考 私の俳句作法(沢木欣一) (即物具象の写生を基礎として)

- 素直な眼
- 即物
- 原型把握
- 笑い

3. 写生の尊重

自然を心を込めて見、感受し、言葉を選ぶという謙虚な態度・方法が一口で言えば写生である。

見たまま、ありのままでは詩の体を為さない。そのモノの本質、即ちモノが保有している性質の全部または一部を切り取って観察、表現することである。

独自の発見、感動を確かに表現する、そのためには「凝視」することである。そして、「即物具象・写実の写生」を通して、これからの「万象は」以下の項目を強く意識して行くことにする。

切れ	(俳句性の重要な部分)
具象化	(観念の形象化)
新しさ	(陳腐、月並からの脱却)
自分の句	(作者の個性)